

トピックス

国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況 (平成22年度年次報告) について

国土交通省国土技術政策総合研究所総合技術政策研究センター
建設マネジメント技術研究室

1. はじめに

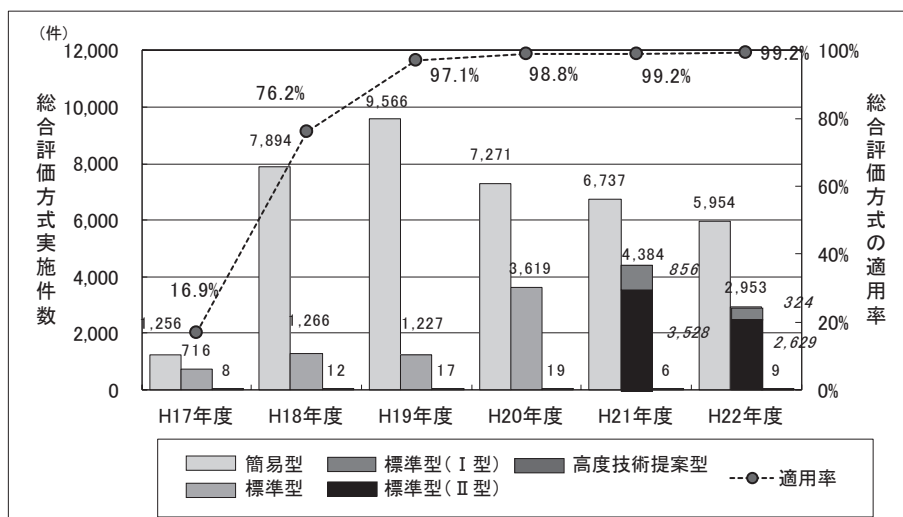
国土交通省では、国土交通省直轄事業における公共事業の品質のさらなる確保・向上を図るため、平成21年度に設置した「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」(座長：小澤一雅東京大学大学院工学研究科教授)において、総合評価方式の活用・改善や多様な入札・契約制度の導入等、入札・契約に関する諸課題への対応方針について検討を行っており、これら検討に資するため国土交通省における総合評価方式の現況を取りまとめた「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況(年次報告)」を作成しております。

本稿では、平成22年度の年次報告につい

てその速報版を作成しましたので、その概要を報告いたします。

2. 総合評価方式の普及・拡大の状況

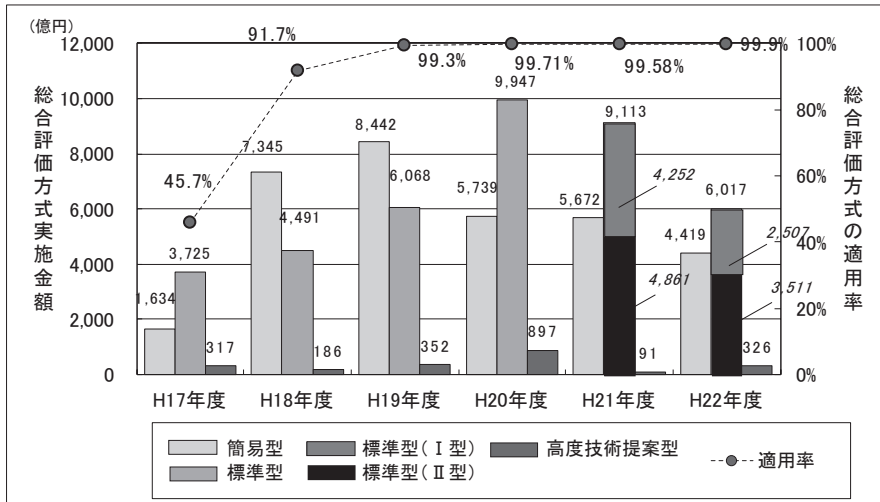
年度別及びタイプ別の総合評価方式の実施件数と実施金額について、それぞれ図－1及び図－2に示します。平成22年度における総合評価方式の適用率は件数ベースで99.2%となり、ほぼ100%の適用状況となっています。タイプ別では、最も多いのは簡易型の5,954件(全体に占める割合66.8%)で、最も少ないのは高度技術提案型の9件(同0.1%)です。また、金額ベースでの平成22年度における総合評価方式の適用率は99.9%となり、ほぼ100%の適用状況となっています。タイプ別では、最も多いのは標



注1) 8地方整備局における実施件数。

注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

図－1 総合評価方式の年度別・タイプ別の実施状況(件数)



注1) 8地方整備局における当初実施金額。

注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事金額に対する総合評価方式実施金額の割合。

図-2 総合評価方式の年度別・タイプ別の実施状況（金額）

準型の6,017億円（全体に占める割合55.9%）で、最も少ないのは高度技術提案型の326億円（同3.0%）です。

3. 高度技術提案型の実施状況

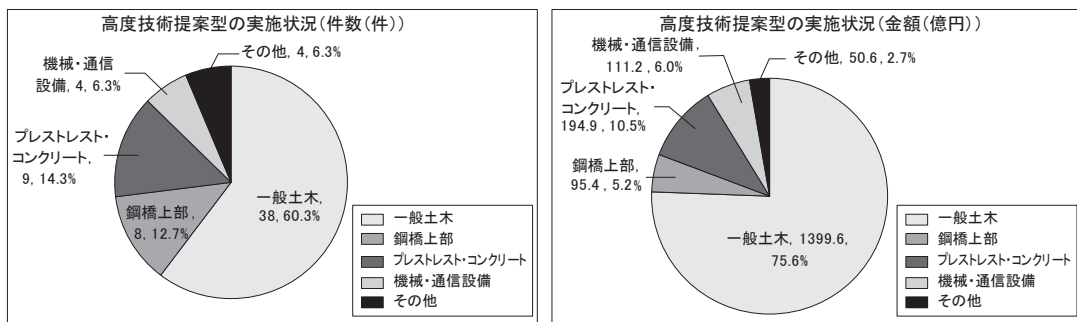
総合評価方式の各タイプのうち高度技術提案型について、工種別の実施件数と実施金額を図-3に示します。高度技術提案型は、平成18～22年度において、一般土木、鋼橋上部、プレストレストコンクリートの各工種において実施する場合が多く、件数ベースで55件（全体に占める割合87.3%）、

金額ベースで1,690億円（同91.3%）です。

4. 技術評価の実施状況

総合評価方式の各タイプにおける加算点（満点）の設定状況について図-4に示します。加算点の配点の平均は、標準型（Ⅰ型）58.1点、標準型（Ⅱ型）46.8点、簡易型33.3点、実績重視型27.4点となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い配点となっています。標準型（Ⅰ型）は加算点を60点以上とした件数が77.6%を占め、標準型（Ⅱ型）は50点以上が74.0%、

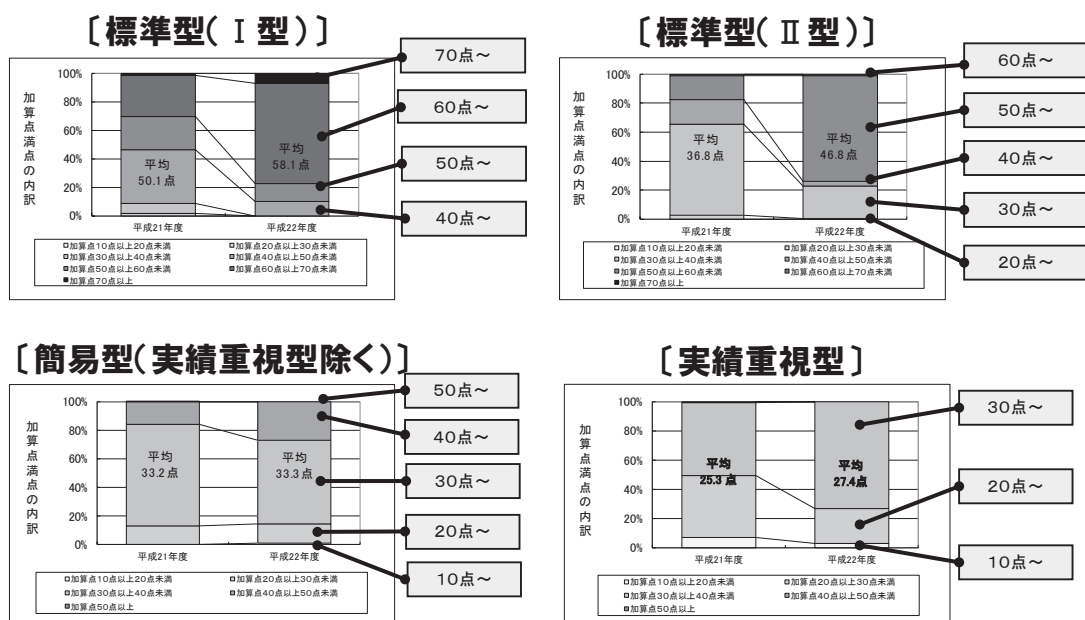
〔高度技術提案型〕



注1) 8地方整備局を対象。

注2) 全工種を対象。

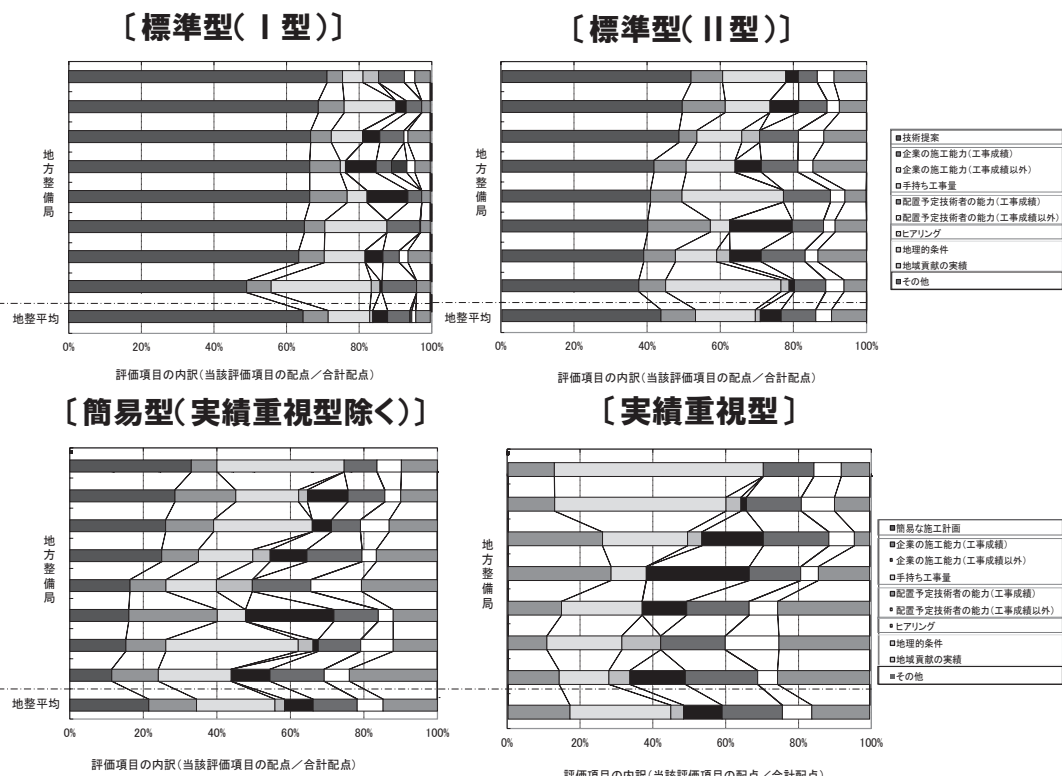
図-3 高度技術提案型の実施状況（平成18年度～平成22年度）



注1) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

注2)実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

図-4 各タイプにおける加算点満点の内訳



注1)各評価項目の詳細配点が確認でき、かつ主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

注2) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合

注3)WTO対象工事を除外。

注4)実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

図-5 地方整備局別 各評価項目の配点率

簡易型と実績重視型は30点以上がそれぞれ85.7%、73.1%を占めています。また、地方整備局別評価項目の配点割合について図－5に示します。「技術提案」の配点率は、標準型（Ⅰ型）は60%～70%程度、標準型（Ⅱ型）は40%～50%程度となっています。簡易型では、「簡易な施工計画」の配点率が10%～30%程度の配点率となっています。コンクリート構造物工事と土工事の技術提案課題の配点率は、標準型（Ⅰ型）、標準型（Ⅱ型）いずれも、ほとんどの地方整備局で「性能・機能」の配点率が高くなっています。

5. 標準型・簡易型における評価項目

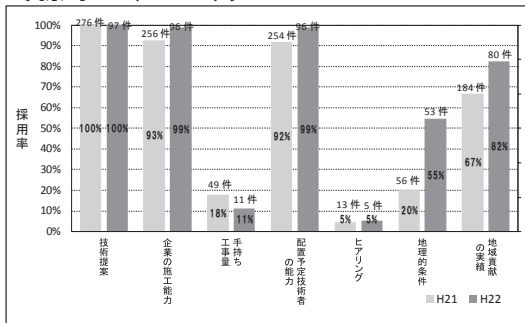
標準型・簡易型における評価項目の採用状況について図－6に示します。標準型（Ⅰ型）では「技術提案」に次いで「企業

の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の採用率が高く、標準型（Ⅱ型）では「技術提案」と「企業の施工能力」に次いで「配置予定技術者の能力」と「地域貢献の実績」の採用率が高くなっています。簡易型の評価項目のうち、「簡易な施工計画」の他で採用率が高いのは、「企業の施工能力」、「配置予定技術者の能力」及び「地域貢献の実績」で、ほぼ100%となっています。

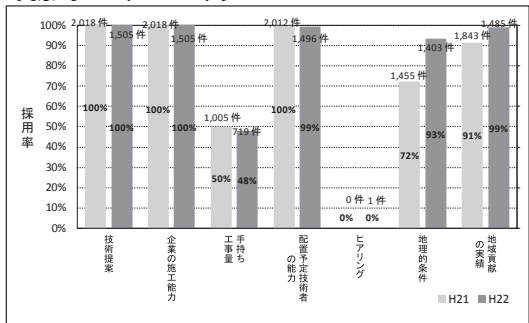
6. 落札者の状況（入札価格と技術評価点得点との関係）

「入札価格（最低価格、最低価格以外）」と「技術評価点の得点（最高得点、最高得点以外）」の関係で落札者の割合を年度ごとに整理した結果を図－7に示します。最高得点者（最低価格者以外）が落札した割

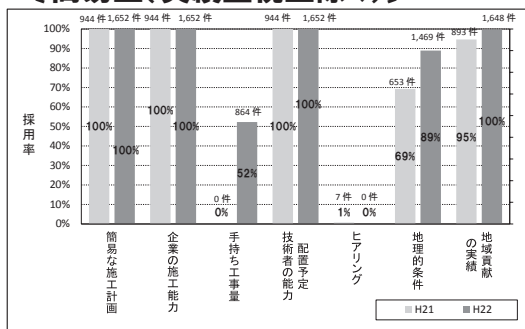
〔標準型(Ⅰ型)〕



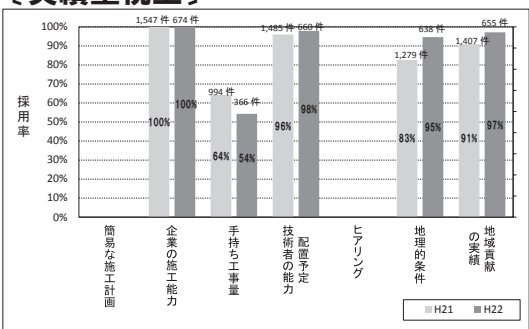
〔標準型(Ⅱ型)〕



〔簡易型(実績重視型除く)〕



〔実績重視型〕

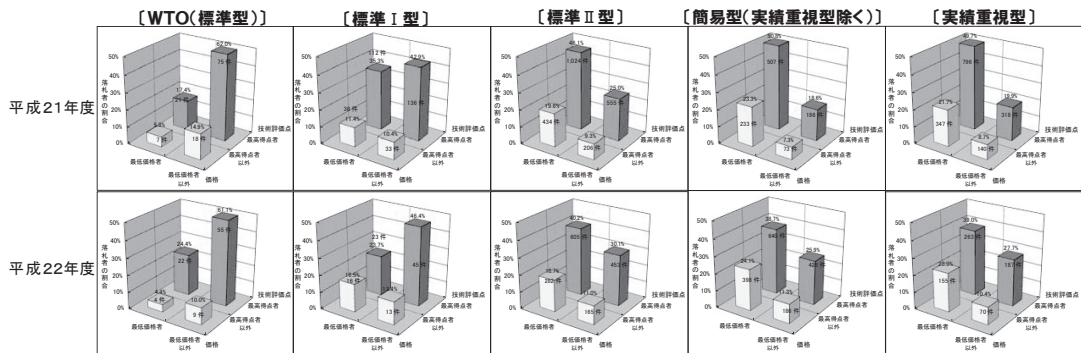


注1)採用率:総合評価方式の全適用工事に対する当該評価項目の採用工事の割合。

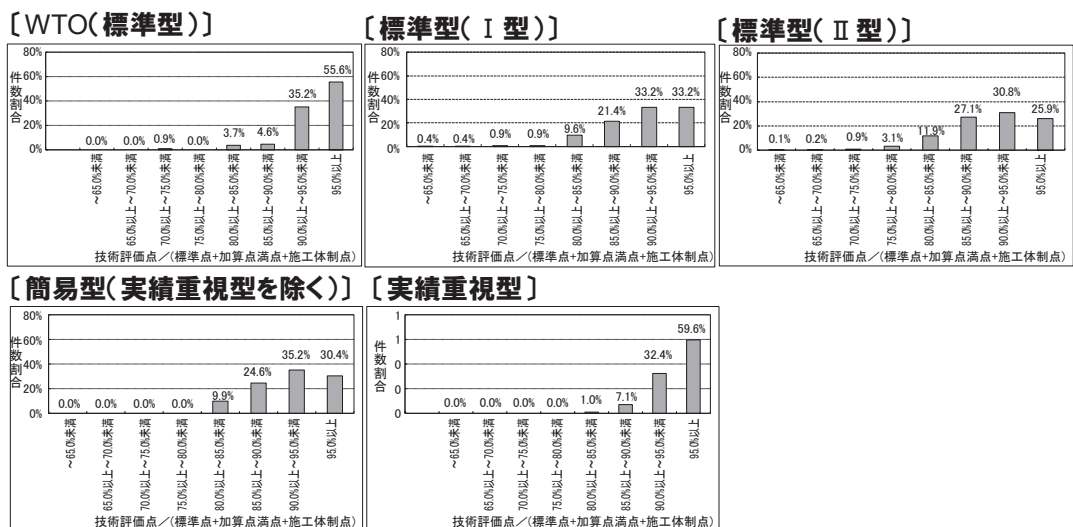
注2)平成21年度、平成22年度の契約工事のうち、主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

注3)WTO対象工事を除外。

図－6 タイプ別評価項目の採用状況



図－7 落札者の状況（入札価格と技術評価点得点との関係）



注1) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
注2) 実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

図－8 落札者の技術評価点得点状況

合は、WTO（標準型）61.1%、標準型（Ⅰ型）46.4%、標準型（Ⅱ型）30.1%、簡易型25.9%（実績重視型27.7%）となっており、技術評価を重視する割合が大きいほど高い割合となっています。

総合評価方式の各タイプにおける技術評価点の得点状況について図－8に示します。加算点合計に占める技術評価点の割合は、WTO（標準型）、標準型（Ⅰ型）、標準型（Ⅱ型）、簡易型で90%以上となる件数が過半数を超えています。

7. おわりに

今回は平成22年度の年次報告の概要について述べました。過年度作成の「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（年次報告）」のほか、「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」におけるこれまでの検討内容・検討成果は国土技術政策総合研究所のホームページ（URL：<http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm>）に掲載されていますので、ご参照ください。